

2015 年度（平成 27 年度）事業報告

（2015（平成 27）年 4 月 1 日から 2016（平成 28）年 3 月 31 日まで）

1 公益目的事業の状況

「公 1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

（1）資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2015 年度に当財団が受け入れた寄附金は合計 158,141,789 円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2015 年度は、Give One（ギブワン）登録団体の選定方針の見直し検討期間であったため、新規登録団体の募集は行わなかった。2015 年度末の登録団体の状況は、前年度より 3 団体減少し 155 団体となったが、登録プロジェクト数は 59 増加して 298 プロジェクトだった。

2015 年度のオンライン寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計 26,033,325 円で、前年度比 26% 増となった。

オンライン寄附のキャンペーン期間中（E-ファンドレイジング・チャレンジ、2015 年 12 月 8 日～2016 年 1 月 8 日実施）の寄附は 2,086,217 円で、昨年度の 3,895,743 円と比べて 46% 減となった。

寄附金の 85% にあたる 22,128,326 円を、登録団体のうち 134 団体、240 プロジェクトに対する助成金にあて、15% を同サイトの運営費用とした。助成の団体別内訳実績は下記の通りである。

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
パブリックリソース財団「Give One 寄附パッケージ」窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイチ大地震による被災者緊急支援 ・東北関東大震災 被災者緊急支援（専用ページ） ・災害弱者（障害者・アレルギー患者・外国人）寄附パッケージ ・【東日本大震災】生活再建支援寄附パッケージ ・【東日本大震災】復興ふくしま支援寄附パッケージ ・【震災特別寄附パッケージ】被災地3県の8団体応援プロジェクト ・中国四川省地震 緊急支援 ・【ネパール大地震】 緊急支援パッケージ ・【シリア内戦】緊急人道支援寄付パッケージ ・アフガニスタンの人々に健康と教育を【パッケージ】 	¥4,487,378	¥3,814,271
フードバンク山梨	¥1,247,616	¥1,060,474
全国女性シェルターネット	¥1,083,999	¥921,399
アムダ（AMD A）	¥1,077,224	¥915,640
新宿連絡会	¥1,053,787	¥895,719
CAP センター・JAPAN	¥660,848	¥561,721
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥619,225	¥526,341
子どもシェルターモモ	¥593,391	¥504,382
ジャパン・プラットフォーム	¥547,935	¥465,745
国際環境 NGO FoE Japan	¥531,000	¥451,350
フードバンク関西	¥492,587	¥418,699
長野サマライズ・センター	¥467,208	¥397,127
日本 IDDM ネットワーク	¥458,350	¥389,598
ジェン（JEN）	¥445,354	¥378,551
ピース ウィンズ・ジャパン	¥430,177	¥365,650
石西礁湖サンゴ礁基金	¥428,400	¥364,140
日本芸能実演家団体協議会	¥425,000	¥361,250
子どもセンター「パオ」	¥423,644	¥360,097
日本地雷処理を支援する会（JMAS）	¥391,477	¥332,755
ブリッジフォースマイル	¥384,500	¥326,825
ビッグイシュー基金	¥368,243	¥313,007
白神山地を守る会	¥359,776	¥305,810
自立支援センターふるさとの会	¥356,121	¥302,703
パレスチナ子どものキャンペーン	¥336,987	¥286,439
SOS子どもの村 JAPAN	¥309,677	¥263,225

日本国際民間協力会 (NICCO)	¥299,035	¥254,180
パブリックリソース財団	¥288,000	¥244,800
グッドネーパーズ・ジャパン	¥287,677	¥244,525
ケア・インターナショナル ジャパン	¥284,200	¥241,570
JUON(樹恩) NETWORK	¥269,500	¥229,075
難民を助ける会	¥261,177	¥222,000
働く女性の全国センター(ACW2)	¥242,677	¥206,275
ビーンズふくしま	¥242,151	¥205,828
越谷らるご	¥221,072	¥187,911
キッズドア	¥213,085	¥181,122
さなぎ達	¥206,354	¥175,401
遠野まごころネット	¥168,470	¥143,200
民際センター	¥165,500	¥140,675
トゥギャザー	¥164,956	¥140,213
地球の友と歩む会 (LIFE)	¥160,000	¥136,000
シャンティ国際ボランティア会	¥156,000	¥132,600
環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部	¥149,854	¥127,376
緑の地球ネットワーク	¥146,000	¥124,100
ばれっと	¥134,000	¥113,900
ハンガー・フリー・ワールド	¥130,188	¥110,660
エバーラスティング・ネイチャー	¥121,000	¥102,850
ふよう士2100	¥119,554	¥101,621
エイブル・アート・ジャパン	¥108,000	¥91,800
日本点字図書館	¥107,000	¥90,950
日本クリニックラウン協会	¥102,292	¥86,948
芸術家と子どもたち	¥102,177	¥86,850
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)	¥100,500	¥85,425
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	¥95,500	¥81,175
あおもり NPO サポートセンター	¥90,000	¥76,500
アレルギー支援ネットワーク	¥89,500	¥76,075
こどもコミュニティケア	¥89,447	¥76,030
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	¥83,000	¥70,550
アジア・アフリカと共に歩む会	¥82,000	¥69,700
箕面こどもの森学園	¥79,630	¥67,686
ブリッジ エーシア ジャパン	¥79,208	¥67,327
こころ塾	¥76,915	¥65,378
チャイルド・リソース・センター	¥76,500	¥65,025
フローレンス	¥75,150	¥63,878

カパティラン	¥75,000	¥63,750
シャプラニール	¥73,677	¥62,625
女性の安全と健康のための支援教育センター	¥73,500	¥62,475
神戸定住外国人支援センター (KFC)	¥70,500	¥59,925
日本クマネットワーク (JBN)	¥70,500	¥59,925
アトピッ子地球の子ネットワーク	¥70,000	¥59,500
日本グッド・トイ委員会	¥70,000	¥59,500
東京シューレ	¥69,000	¥58,650
DPI 日本会議	¥68,177	¥57,950
難民支援協会	¥67,500	¥57,375
チャンス・フォー・チルドレン	¥67,000	¥56,950
子どもの虐待防止センター	¥62,177	¥52,850
サポートハウスじよむ	¥60,000	¥51,000
児童虐待防止協会	¥60,000	¥51,000
アイキャン	¥58,500	¥49,725
グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会	¥58,000	¥49,300
東京 YMCA “liby (リビー)”	¥52,000	¥44,200
いわき放射能市民測定室 「たらちね」	¥51,000	¥43,350
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥49,000	¥41,650
めぐはうす 地域生活支援センターMOT A	¥45,700	¥38,845
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	¥45,300	¥38,505
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	¥43,500	¥36,975
響愛学園	¥43,000	¥36,550
高木仁三郎市民科学基金	¥42,000	¥35,700
C O D E 海外災害援助市民センター	¥41,745	¥35,483
リソースセンターone	¥39,000	¥33,150
知床自然大学院大学設立財団	¥39,000	¥33,150
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥36,500	¥31,025
21 世紀協会	¥35,354	¥30,051
タンザニア・ポレポレクラブ	¥32,083	¥27,271
「みのお山麓保全ファンド」	¥32,000	¥27,200
国際医療技術財団	¥31,000	¥26,350
JHP・学校をつくる会	¥27,500	¥23,375
WE 2 1 ジャパン	¥26,300	¥22,355
日本ウミガメ協議会	¥25,000	¥21,250
ACE	¥24,000	¥20,400
東京 YMCA	¥23,000	¥19,550
尾道空き家再生プロジェクト	¥22,000	¥18,700

ムラのミライ	¥21,354	¥18,151
ゆるら	¥20,000	¥17,000
インド福祉村協会	¥19,354	¥16,451
日本国際ボランティアセンター (JVC)	¥19,000	¥16,150
のんびりすみちゃんの家	¥18,000	¥15,300
みやぎ身体障害者サポートクラブ	¥18,000	¥15,300
Hands On Tokyo	¥17,000	¥14,450
楠の木学園	¥16,954	¥14,411
輝くなかまチャレンジド	¥16,000	¥13,600
チャイルド・ファンド・ジャパン	¥15,000	¥12,750
霧多布湿原ナショナルトラスト	¥15,000	¥12,750
(公益財団法人公害地域再生センター)	¥11,000	¥9,350
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	¥11,000	¥9,350
きょうとグリーンファンド	¥10,000	¥8,500
まちぽっと	¥10,000	¥8,500
エッジ	¥9,800	¥8,330
気候ネットワーク	¥9,000	¥7,650
多言語社会リソースかながわ	¥8,000	¥6,800
樹木・環境ネットワーク協会	¥6,000	¥5,100
H I V と人権・情報センター	¥5,000	¥4,250
ネットワーク・市民アーカイブ	¥5,000	¥4,250
リヴォルヴ学校教育研究所	¥5,000	¥4,250
日本おもちゃ病院協会	¥4,500	¥3,825
アイサーチ・ジャパン	¥4,000	¥3,400
野生生物保全論研究会	¥3,000	¥2,550
緑と水の連絡会議	¥2,000	¥1,700
地雷廃絶日本キャンペーン	¥1,500	¥1,275
創る村	¥1,177	¥1,000
サンクチュアリ エヌピーオー	¥1,000	¥850
トラ・ゾウ保護基金	¥1,000	¥850
メコン・ウォッチ	¥1,000	¥850
ロボカップ日本委員会	¥1,000	¥850
環境文明二十一	¥1,000	¥850
合計	¥26,033,325	¥22,128,326

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One 登録団体に対する寄附は、8 件、合計 5,709,640 円だった。

寄付者名	寄付金額
azbil みつばち倶楽部	¥2,300,000
株式会社クオカード (5件)	¥24,640
個人 (匿名)	¥50,000
キャノンマーケティングジャパン株式会社	¥3,335,000
合計	¥5,709,640

以下の助成先に合計 4,917,662 円を助成した。

助成先団体名	助成額
CAP センター・JAPAN	¥85,000
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥85,000
アイキャン	¥85,000
アサザ基金	¥1,700,000
アムダ (AMDA)	¥6,596
エイブル・アート・ジャパン	¥13,821
エッジ	¥85,000
エバーラスティング・ネイチャー	¥6,766
キッズドア	¥85,000
こどもコミュニティケア	¥85,000
トゥギャザー	¥85,000
ネットワークオレンジ	¥85,000
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥85,000
パブリックリソース財団	¥28,679
ビーンズふくしま	¥85,000
フードバンク山梨	¥85,000
ふよう土2100	¥85,000
ブリッジ エーシア ジャパン	¥85,000
ブリッジフォースマイル	¥85,000
越谷らるご	¥85,000
遠野まごころネット	¥85,000
共存の森ネットワーク	¥1,200,000
響愛学園	¥85,000
芸術家と子どもたち	¥442
児童虐待防止協会	¥85,000
自立支援センターふるさとの会	¥85,000
神戸定住外国人支援センター (KFC)	¥85,000
石西礁湖サンゴ礁基金	¥2,176
全国女性シェルターネット	¥85,000

日本クリクラウン協会	¥89,182
日本国際民間協力会 (NICCO)	¥85,000
合計	¥4,917,662

2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、個人 26 件、350,000 円、法人 1 件、100,000 円の合計 450,000 円だった。

3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、昨年度、助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用される障がい者アートの活動（一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー）を助成先として決定した。2015 年度は、2015 年版年賀状販売による寄附金（51,699 円）をもとに、43,945 円の助成を実施した。

助成額	43,945 円（2014 年度寄附分で、2015 年度助成実施額）
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査会	2014 年 7 月 11 日～17 日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2016 年 4 月～2017 年 3 月

4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進

今期は下記の基金を運営した。

<東日本大震災広域避難者支援基金>

「東日本大震災広域避難者支援基金」は、福島からの広域避難者の生活の質の向上を目指すものである。特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 821,804 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 698,538 円を助成金として支出した。自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。昨年度助成先のうち特定非営利活動法人子どもプロジェクトと福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会については、昨年度活動報告と本年度事業計画をもとに選考委員会で審査を行い、継続助成することが決定した。昨年度助成先の特定非営利活動法人 IVY が昨年度で事業が終了したため、新たな支援先 1 件について公募を行い、審査の結果、特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワークへの助成を決定した。

受入寄附金額	821,804 円
助成額	698,538 円 (3 団体合計)
公募	2015 年 3 月 18 日～4 月 1 日
応募	3 件 (うち 2 件は継続)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。 特定非営利活動法人こどもプロジェクト (継続) 福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会 (継続) 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク (新規)
助成期間	2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

<東日本大震災復興支援基金>

同基金には、特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 1,216,832 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 1,034,313 円を助成金として支出した。

自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。

受入寄附金額	1,216,832 円
助成額	1,034,313 円 (3 団体合計)
公募	2015 年 3 月 18 日～4 月 1 日
応募	3 件 (すべて継続)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。 財団法人たんぼぼの家 東日本大震災復興支援事業 (継続) 特定非営利活動法人ビーンズふくしま (継続) 特定非営利活動法人遠野まごころネット (継続)
助成期間	2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

<未来につなぐふるさと基金>

本事業は特定非営利活動法人パブリックリソースセンター（弊財団の前身団体）がキヤノンマーケティングジャパン株式会社と協働して開始した事業である。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙（コピー紙）の販売数に応じ、同社が実施する寄附を初めとし、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への 2015 年度寄附受け入れ総額は 17,290,377 円だった。 9,320,626 円を助成した。

本年度の助成先の選定にあたって、過去にパブリックリソースセンターが公募し審査して選定した 13 団体 13 事業について、改めて審査会による審査を行い、13 団体 13 事業を継続助成先として採用した。

同助成先に対しては、キヤノンマーケティングジャパン株式会社グループの社員参加によるボランティアの派遣も併せて実施し、「ふるさとづくり」に貢献した。

受入寄附金額	17,290,377 円
助成額	9,320,626 円（13 団体合計）
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 楨ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	以下の 13 団体（13 事業）を決定 北海道 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト 青森県 NPO 法人白神山地を守る会 茨城県 NPO 法人アサザ基金 栃木県 NPO 法人くまの木里の暮らし 新潟県 NPO 法人共存の森ネットワーク 山梨県 一般社団法人風土人 静岡県 NPO 法人グラウンドワーク三島 三重県 野原村元気づくり協議会 大阪府 NPO 法人里山倶楽部 広島県 西条・山と水の環境機構 香川県 NPO 法人どんぐりネットワーク 福岡県 和白干潟を守る会 沖縄県 美ぎ島宮古グリーンネット
助成期間	2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

また、「未来につなぐふるさと基金」は企画内容を全面的に見直し、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、公益財団法人日本自然保護協会、弊財団が協力して、生物多様性についての啓発活動を行う市民団体を、資金面と運営面の両面から支援する基金として、再

スタートすることとなった。本年度は、企画内容を固め、公募・審査を行い、以下の団体を助成先として決定した。助成金の支払いは、2016年度に実施する予定である。

助成額	2016年度に助成予定 (2,500,000 円)
公募	2015年11月17日～2016年1月8日
審査会	2016年2月18日
選考委員	古沢広祐 (国学院大学大学院経済学研究科教授) 古瀬繁範 (NPO 法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長) 福田真由子 (公益財団法人 日本自然保護協会 自然保護部 市民活動推進室) 鈴木郁 (キヤノンマーケティングジャパン株式会社 執行役員 CSR 本部長)
審査結果	以下の5団体を決定 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島 特定非営利活動法人 棚田 LOVER's 真庭遺産研究会 特定非営利活動法人 西中国山地自然史研究会 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム
助成期間	2016年4月1日～2016年12月31日

<教育基金>

教育の課題解決に取り組む NPO や社会的企業を応援するために、教育基金を設置した。全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身に着けることをめざすものである。昨年度選考委員会で決定した助成先 NPO 法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム (次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム) に対し、継続的に助成をしている。

寄附募集の結果、今年度は6件 37,245 円の寄附を受け入れ、昨年度からの繰越し分と合わせて 54,000 円を助成した。

受入寄附金額	37,245 円
助成額	54,000 円
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2015年4月～2016年3月

<アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの場を豊かな空間とすることを目指すもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。2015年度は14件、211,777 円の寄附を受け入れた。助成先の決定

にあたっては、下記の公募、選考委員会を経て、1件に対し総額 369,000 円の助成を行った。

受入寄附金額	211,777 円
助成額	369,000 円 (1 団体) 前年度からの繰り越し分を加算
公募期間	2015 年 7 月 15 日～8 月 7 日
応募件数	4 団体
審査会	2015 年 8 月 27 日
選考委員	江口八千代 認定 NPO 法人ファミリーハウス代表理事 鈴木理恵子 女子美術大学アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域准教授 中村陽一 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授 楨ひさ恵 特定非営利活動法人ニンジン常務理事 森口ゆたか 特定非営利活動法人アーツプロジェクト理事長
審査結果	1 団体を決定。 ＜東日本大震災被災地におけるアートを通じたコミュニティの復興を応援＞領域 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン プロジェクト名：南三陸・のぞみの森プロジェクト [2014 年度助成事業 南三陸・望みの森プロジェクト のぞみ福祉作業所 拠点施設再建に向けてのランドデザインプロジェクトより継続] 対象施設：社会福祉法人洗心会 のぞみ福祉作業所
助成期間	2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

＜AED・地域あんしん基金＞

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「AED・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設に AED を寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力および AED の設置、講習インストラクターの派遣を行った。本年度は、5 件合計 3,236,074 円の寄附を受け入れた。

審査委員会で応募 7 団体を審査し、2015 年度は 4 団体への寄贈を決定した。今年度は下記の小袖海女センターとまちなか交流館へ AED の寄贈を行い、認定 NPO 法人フロンティア南相馬とのびのび学童保育所は 2016 年度に持ち越した。

受入寄附金額	3,236,074 円
寄贈台数	2 台 (2015 年度)
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	7 団体

審査会	2015年4月6日、2015年12月17日、2016年2月10日
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員） 市瀬敬子（NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長）
AED寄贈先 選定結果	4団体を決定。 小袖海女センター まちなか交流館 認定NPO法人フロンティア南相馬（2016年4月寄贈） のびのび学童保育所（2016年4月寄贈）

< AED・健康スポーツ基金 >

公益財団法人日本健康スポーツ連盟と共同で、「AED・健康スポーツ基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、地域スポーツに関わる多くの方がAEDを使えるよう、地域のスポーツチームにAEDを寄贈することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、日本健康スポーツ連盟は、募金活動、AED普及についての啓蒙活動、講習インストラクターの派遣と講習の実施を行う。本年度は、6件合計1,014,719円の寄附を受け入れた。2016年度より寄贈先の公募、審査を行う。

受入寄附金額	1,014,719円
寄贈台数	2016年度へ持ち越し
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員） 市瀬敬子（NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長） 玉利齊 公益財団法人日本健康スポーツ連盟理事長

< ふくしま未来基金 >

「ふくしま未来基金」は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金で、本年度は7件、合計94,500,000円の寄附を受け入れた。た。

2015年度は、一般社団法人ふくしま連携復興センターなど、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携し、「未来づくり助成」「まちづくり草の根助成」の二つの助成プログラムを開始して、福島県内13団体に助成した。

受入寄附金額	94,500,000円
助成額	22,450,000円
公募	2015年2月15日～4月15日

応募件数	123 団体
審査会	2015 年 5 月 14 日
選考委員	鈴木 浩（福島大学名誉教授） 黒田 かをり（般財団法人 CSO ネットワーク 常務理事） 鷹野 秀征（弊財団理事 復興庁上席政策調査官） 中鉢 博之（NPO 法人ビーンズふくしま理事） 長澤 裕子（株式会社吾妻高原ウインドファーム代表取締役）
選定結果	<未来づくり助成> 特定非営利活動法人超学際的研究機構 一般社団法人 Bridge for Fukushima 特定非営利活動法人 NPO ほうらい 特定非営利活動法人 Lotus 特定非営利活動法人よつくらぶ <まちづくり草の根助成> 特定非営利活動法人いわき F スポーツクラブ 特定非営利活動法人郡山ペップ子育てネットワーク 福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN） フクシマ環境未来基地 特定非営利活動法人ふくしま Green space 福島県立福島高等学校 SSH 部 特定非営利活動法人ふくしま 30 年プロジェクト 認定特定非営利活動法人フロンティア南相馬
助成期間	2015 年 6 月 1 日～2016 年 5 月 31 日

<あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を創設した。

創設に際しては、基金の趣旨に賛同し活動を支援する賛同人を募り、2015 年度に 50 名が名を連ねた。クアルコムジャパン株式会社の協賛により、12 月 3 日にあい基金創設発表会を行い、賛同人を中心とする 63 名が参加した。その後も寄附者のすそ野を広げるワークショップ「あいサロン」を 2 回開催し、のべ 27 名が参加した。

2015 年度は個人 71 件、1,927,640 円、法人 2 件、3,030,000 円、合計 4,957,640 円の寄附を受け入れた。2016 年度に第一回目の助成事業を行う予定である。

(2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

<損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部「Heart&Arts プログラム」>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社と業務委託契約を結び、損害保険ジャパン日本興亜

株式会社の全役職員がメンバーであるボランティア組織、「損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart&Arts プログラム」の運営支援を行った。同プログラムは、美術活動、音楽活動、舞台芸術活動などのアート（芸術）の力を活用して、社会課題を解決する団体のうち、障がい者がアートの力で自分を自由に表現する活動を実践する団体の組織基盤強化を支援する助成プログラムである。当財団では、同プログラムの趣旨および応募要項の作成協力、助成団体の公募、助成団体の一次審査を行った。一次審査の際には、専門家（梅田亜由美氏）のアドバイスを受けた。本プログラムにおいては、助成先の最終決定は、一次審査の結果をもとに、損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部が行うこととなっており、最終的に 10 団体への助成を決定した。

公募期間	2015 年 12 月 22 日～2016 年 2 月 12 日
応募件数	64 団体
一次審査の方法	梅田亜由美氏（女子美術大学 非常勤講師、「みんなの美術館プロジェクト」実行委員）を専門家として招き、事務局とともに応募用紙を精査
一次審査結果	10 団体を推薦

<azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月 100 円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。本年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。

<CSR 推進のための企業との対話>

企業の CSR レポートの第三者意見の執筆、一般社団法人 CSR レビューフォーラムの行う企業の CSR のレビュー（企業と NGO との対話）への参画などを通じ、市民セクターの立場から CSR の推進に取り組んだ。

<東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを実施した。

（3） 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

分野別、テーマ別の各種基金が創設されたことから、資金管理を正確に行い、寄附者とのコミュニケーションを効果的に行うために、寄附者データベースのシステムづくりに取り組んだ。

また、遺言や相続に関係する寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。

2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

<Eファンドレイジング・チャレンジ (E-チャレンジ) >

Give One (ギブワン) 登録団体を対象に、オンラインでの寄附調達の目標達成を競う「Eファンドレイジング・チャレンジ (E-チャレンジ)」事業を企画し、実施した。また、E-チャレンジ参加団体の寄付調達を応援するために、**Give One** (ギブワン) に対していただいたご寄付を原資としたボーナスファンド (上限 213,979 円) を用意し、各団体が集めたオンライン寄付の 10%にあたる金額を支給した。

本年度は **Give One** (ギブワン) 登録団体のうち 23 団体が参加し、E-チャレンジ期間中の寄附総額は昨年の 3,895,743 円に対し 1,809,456 円減の 2,086,287 円であった。

参加団体に対しては、メーリングリストを活用して、E-チャレンジ開催期間の段階別アドバイス等を行い、参加団体のファンドレイジング力向上に貢献した。

Give One (ギブワン) 登録団体への参加呼びかけ期間	2015 年 11 月 11 日～11 月 27 日
応募団体数、実施団体数	23 団体
E-チャレンジ実施日	2015 年 12 月 8 日～2016 年 1 月 8 日
オンライン上での受取寄附金額	2,086,287 円
ボーナスファンド	213,979 円

(4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

(5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

上記 (4) 及び (5) は、(1) の事業において受け入れた寄附を活用する事業。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4) の助成事業については、(1) の事業で記載した。(5) について今期は実施しなかった。

(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO 法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPO のマネジメントコンサルティングの実施

<特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク>

太陽光発電所ネットワークが Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断のコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析、ミッションビジョン明確化ワークショップ、会員アンケート、意見交換会等を

行い、組織診断結果を報告書にまとめて同団体に提出した。また、2015年7月4日に組織診断結果の報告会を行った。

実施期間：2015年1月16日～2015年7月26日

コンサルティングの内容：組織診断

<特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会>

しずおか環境教育研究会が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析、SWOT ワークショップ、意見交換会等を行い、組織診断結果を報告書にまとめて同団体に提出した。また、外部講師を2名派遣した。2016年1月からは、2年目のマネジメントコンサルティングのフェーズに入った。

実施予定期間：2015年1月17日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：組織診断およびマネジメントコンサルティング

<社会福祉法人 日本国際社会事業団>

日本国際社会事業団が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析をスタートした。

実施予定期間：2016年1月1日～2016年12月31日

2015年度のコンサルティングの内容：組織診断

<特定非営利活動法人 えがおさんさん>

組織の規定等の整備、会議運営の効率化、収益の改善に取り組むことを目的に、マネジメントコンサルティングを受託した。

実施予定期間：2016年2月3日～2016年8月31日

2015年度のコンサルティングの内容：規定類の作成支援、収益改善のためのアドバイス等

<認定 NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット中期計画策定支援>

宮城県仙台市に拠点を置く認定特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネットの中期計画フォローアップの支援を行った。

実施期間：2015年4月～2016年3月

2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣、外部への寄稿、原稿執筆、企業の CSR 報告書への第三者意見の執筆、ステークホルダーダイアログへの出席を、延べ 27 回行った。

3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

3つの社会的な法人（特定非営利活動法人自治創造コンソーシアム、特定非営利活動法人ニンジン、一般社団法人新興事業創出機構）の事務局運営支援を行った。

(7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポート ファンド 2013 年助成事業の成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポート ファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2013 年度組織基盤強化学業の助成対象団体（対象団体：19 団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。

助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、助成先団体へのアンケート調査を行った。弊財団では、同社に対し報告書を提出するとともに、2016 年 1 月 20 日にパナソニックセンター東京（東京都江東区有明）で実施された「組織基盤強化フォーラム」（主催：パナソニック株式会社）において、評価結果の報告を行った。

<Panasonic NPO サポート ファンドの社会的インパクト評価>

組織基盤強化学業の社会的な成果を明らかにするために、過去に同ファンドの助成を受けた団体の中からパナソニック株式会社が選んだ以下の 3 団体を対象に、同ファンドの組織基盤強化助成により生まれた社会的インパクトの評価を行った。

組織能力の変化を定量的に把握するための評価手法として、弊財団が開発した「NPO マネジメント診断シート」を指標群として活用した。助成前と助成後の組織の状態をそれぞれ自己診断でアセスメントして比較することで、助成が組織基盤強化にどのような影響を与えたかを数値で把握した。

助成事業の社会的インパクト、および助成の投資対効果を測るための方法としては、SROI の手法を活用し、助成の投資対効果について定量的な評価を試みた。

評価対象団体	特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム 特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワーク 特定非営利活動法人 アイキャン
--------	---

<ゴールドマン・サックス「中小企業経営革新プログラム」社会的インパクト評価>

Goldman Sachs Japan が CSR 活動の一環として行う、地方の中小企業の経営革新を目的とした半年間のインターンシップ・プログラム、「中小企業経営革新プログラム」の社会的インパクト評価を、SROI の手法を使って行った。評価の目的は、本プログラムの「社会的インパクト」を把握し、内外へのアカウンタビリティを果たし、インパクト最大化のためのプログラムの改善に寄与することにある。

評価は、プログラム主催者であるゴールドマン・サックス、インターンシップにおける学生や受け入れ企業・地域のコーディネート機関との調整を統括した NPO 法人 ETIC.からの情報収集により実施した。

評価の対象は、特にユニークな成果が得られた以下の 4 社であった。評価結果は報告書にまとめ、Goldman Sachs Japan に提出するとともに、2 月 19 日に都内で行われた同プログラムの報告会で参加者に配布した。

【評価対象】

有福観光株式会社（観光業、島根県）

酒井産業株式会社（木材製品製造業、長野県）

山川醸造株式会社（伝統食品製造業、岐阜県）

農業生産法人 株式会社 ぐしけんファーム（食品製造業、沖縄県）

以上